



## 平成26年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年10月28日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 不二家

コード番号 2211 URL <http://www.fujiya-peko.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 櫻井 康文

問合せ先責任者 (役職名) 取締役総務人事本部長 (氏名) 河村 宣行

TEL 03-5978-8100

四半期報告書提出予定日 平成26年11月11日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年12月期第3四半期の連結業績(平成26年1月1日～平成26年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年12月期第3四半期	72,142	11.2	△866	—	△561	—	△1,315	—
25年12月期第3四半期	64,904	3.6	△452	—	80	△89.5	△437	—

(注) 包括利益 26年12月期第3四半期 △1,006百万円 (—%) 25年12月期第3四半期 229百万円 (△56.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年12月期第3四半期	△5.11	—
25年12月期第3四半期	△1.70	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年12月期第3四半期	57,106	27,924	47.2
25年12月期	56,628	29,405	50.5

(参考) 自己資本 26年12月期第3四半期 26,981百万円 25年12月期 28,569百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年12月期	—	0.00	—	1.50	1.50
26年12月期	—	0.00	—	—	—
26年12月期(予想)	—	—	—	1.50	1.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成26年12月期の連結業績予想(平成26年1月1日～平成26年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	103,000	9.9	1,300	18.5	2,000	11.9	1,200	29.0	4.66

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年12月期3Q	257,846,590 株	25年12月期	257,846,590 株
② 期末自己株式数	26年12月期3Q	83,093 株	25年12月期	82,756 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年12月期3Q	257,763,610 株	25年12月期3Q	257,765,077 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P4「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(平成26年1月1日～9月30日)のわが国の経済は、消費税率引上げにより消費意欲が冷え込む中で、円安による輸入原材料やガソリン価格の高騰等を背景に消費者物価が上昇していることもあり、個人消費の持ち直しの動きに足踏みが見られるなど、先行き不透明な状況で推移いたしました。

当社グループが属する食品業界におきましては、実質所得が伸びない消費者が節約志向を強める中で、同業他社との販売競争は熾烈さを増し、さらに、円安や相場変動に伴う急激な原材料価格の高騰が損益を大きく圧迫する厳しい経営環境が続きました。

このような環境の中で当社グループは、「常により良い商品と最善のサービス(ベストクオリティー・ベストサービス)を通じて、お客様、ご家族に、おいしさ、楽しさ、満足を提供する」という経営理念のもと、グループ全社を挙げて、お客様視点に基づく、お買い得感や値頃感を訴求する商品やサービスを提供するとともに、高品質な商品や付加価値のあるサービスの提供にも取り組み、売上の拡大をはかってまいりました。また当社は、本年4月1日に子会社化した(株)スイートガーデンの事業と既存洋菓子事業を合わせた、生産面、物流面での効率化や、(株)スイートガーデンの商品開発力を活かした品揃えの強化、同社店舗の競争力向上に向けた不二家ブランド化等を進めてまいりました。

当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、全セグメントとも増収となり、連結売上高は721億42百万円(対前年同期比111.2%)となりました。損益面では、増収を達成したにもかかわらず厳しい状況となりました。洋菓子事業においては、(株)スイートガーデンの新規連結や広域流通企業との取り組みにより増収となりましたが、原材料価格の上昇に対応した価格改定と消費税率引上げにより客数が減少した洋菓子チェーン店の売上が低調となり、利益率の高いライン化製品も低迷し、加えて物流費用も増加いたしました。菓子事業においても、当社単体では、主力のビスケット類が伸長し増収となりましたものの、主要原材料、特にチョコレート原料の想定を上回る価格高騰の影響が大きく、高騰が予想されたカカオ豆等の前倒し調達や、一部製品の規格改定などを実施いたしました。が、損益を大きく下振れさせることとなりました。営業損失は8億66百万円(前年同期は4億52百万円の営業損失)、経常損失は持分法適用会社の業績低下を受け、5億61百万円(前年同期は80百万円の経常利益)、四半期純損失は13億15百万円(前年同期は4億37百万円の四半期純損失)となりました。

現在当社グループは損益の回復に全社を挙げて取り組んでおります。洋菓子事業におきましては、生産性の高い合理化ラインで製造できる、値頃感を訴求でき、かつ確実に利益の確保に繋がる製品を拡販する体制を速やかに整備するとともに、物流の合理化による経費削減等にも注力してまいります。加えて、「マカロン」や「ザッハトルテ」などの新製品を投入し、洋菓子チェーン店の売上回復を期してまいります。また、菓子事業におきましても、原材料価格高騰に対応するため、製品の規格改定を進めると同時に、売上の確保、販売経費の削減につとめてまいります。さらに、より高い付加価値を求めお客様志向に対応し、新たな需要を取り込むべく、ヨーロッパ伝統の発酵技術を応用し、生地を熟成させ食感を改善し、より風味豊かにグレードアップした新製品「カントリーマアムプレミアム」「厚焼きプレミアムパイ」を開発いたしました。今秋の発売に向け、生産を開始しております。

当社グループのセグメントの概況は次のとおりであります。

		当第3四半期連結累計期間		前第3四半期連結累計期間		対前年同期比	増減
		平成26年1月1日から平成26年9月30日まで		平成25年1月1日から平成25年9月30日まで			
		売上高	構成比	売上高	構成比		
洋菓子事業	洋菓子	百万円	%	百万円	%	%	百万円
	レストラン	20,772	28.8	16,079	24.8	129.2	4,692
	計	5,447	7.5	5,427	8.4	100.4	20
	計	26,219	36.3	21,506	33.2	121.9	4,712
製菓事業	菓子	40,580	56.3	38,293	59.0	106.0	2,286
	飲料	4,155	5.7	3,984	6.1	104.3	170
	計	44,736	62.0	42,278	65.1	105.8	2,457
その他		1,186	1.7	1,118	1.7	106.0	67
合計		72,142	100.0	64,904	100.0	111.2	7,238

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

#### <洋菓子事業>

当社単体の洋菓子におきましては、本年2月に原材料価格の上昇を吸収すべく規格・価格改定を実施いたしました。4月の消費税率引上げにより割高感が増したこともあり、既存洋菓子チェーン店の売上が低調となりました。そのような中で、チーズケーキやモンブランの製品規格を見直し、品質にこだわった価値ある新製品の発売や、値頃感を求めるお客様のニーズに応じた価格帯での品揃えの充実をはかり、また、各種のキャンペーンに加え、消費税率引上げ後の需要減に対応したクーポン券等を用いた販売促進活動等を継続的に展開しました。さらに、(株)スイートガーデンのギフト製品を積極的に導入し、売上の拡大につとめました。

店舗開発につきましては、引き続き集客力のあるショッピングセンター内への出店に注力し、店舗数の拡大をはかるとともに、不二家ブランドの優位性を活かすため、関東、東北、九州、四国地区におけるスイートガーデン店舗について、不二家ブランドへの早期改装を進めました。さらに新しい取り組みとして、食品スーパー内へ専用コーナーを積極的に展開した結果、当第3四半期連結会計期間末の不二家洋菓子チェーンの店舗数は、前年同期に比べ249店増加し、958店となりました。

コンビニエンスストアをはじめとする広域流通企業との取り組みにつきましては、「もっちりとしたパンケーキ」などの企業限定商品を展開したことが、引き続き売上拡大と工場稼働率の向上に寄与しました。

4月1日より子会社化いたしました(株)スイートガーデンにつきましては、小売店舗の不二家への移管による売上減少がありましたものの、外注生産分を内製化するなど生産高の確保につとめ、当初の計画どおりの実績を確保することができました。

高級フランス菓子を製造、販売しているダロワイヨにつきましては、売上好調な「あまおうのマカロン」に加え、新製品「宇治抹茶マカロン」が好評を博しました。消費税率引上げ後の値頃感を求める消費者のニーズにマッチした規格設定や、カタログ販売への積極的な取り組みによるギフト製品の伸長もあり、前年同期の売上を大きく上回りました。

この結果、ケーキ等の洋菓子類の売上高は、(株)スイートガーデンの新規連結もあり、207億72百万円(対前年同期比129.2%)と大きく伸ばいたしました。

家族団欒の場としてご利用いただいているレストランにおきましては、2月の降雪、また消費税率引上げにより、既存店売上に大きな影響を受けることとなりました。月替わりのお得なセットメニューの提供や、8月には3世代のファミリーの集客を目的としたお子様割引セールを展開するなど、売上の回復につとめるとともに、3月には「宇都宮東武店」、4月には「福岡アンパンマン&ペコズキッチン」を新規に開店いたしました。レストランの売上高は54億47百万円(対前年同期比100.4%)となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における洋菓子事業全体の売上高は、262億19百万円（対前年同期比121.9%）と増収になりましたものの、消費税率引上げ後の客数減による既存店の売上低下の影響が大きく、損益面では厳しい状況となりました。

#### <製菓事業>

当社単体の菓子におきましては、お客様から愛され続けているカントリーマアムが発売30周年を迎えたことを機に、30～40代の女性をターゲットに、チョコチップをさらにおいしく、「大人」をキーワードにしたプレミアム感のある新製品、「16枚カントリーマアム（大人のチョコチップ）」及び「同（大人のココア）」を発売し、併せて記念キャンペーンを展開するとともに、ミルクィー、ルックなどの当社主力ブランド製品の拡販につとめました。さらに、果物・野菜の国際ブランド「Dole（ドル）」や、ポッカサッポロフード&ビバレッジ(株)の人気商品ブランドとのコラボ製品の開発、地域や販路を限定した製品、また有力流通各社への専用製品を拡販するなど、厳しい環境の中、積極的な生産・販売活動を行った結果、売上は前年同期を上回りました。

中国において菓子の製造、卸売を行なっている不二家（杭州）食品有限公司につきましては、主力製品である「ポップキャンディ」を中心に引き続き販路の拡大につとめるとともに、北京、上海等の主要都市で、ペコちゃん・ポコちゃんのキャラクターを使ったテレビCMを放映するなど、積極的な宣伝活動を通じて消費者への認知度アップをはかった結果、売上は前年同期を大幅に上回りました。

この結果、菓子の売上高は、405億80百万円（対前年同期比106.0%）となりました。

飲料におきましては、本年6月までは、主力の「ネクターピーチ350g缶」が順調に売上を伸ばすとともに、新製品の「プレミアムネクター」や企業限定商品の「ピーチスムージー」の販売が好調に推移いたしました。加えて、ネクターは発売50周年を記念した消費者キャンペーンの効果もあり、売上は伸ばいたしました。7月以降は天候不順の影響を大きく受け、前年同期を下回る状況となりました。

この結果、飲料売上高は、41億55百万円（対前年同期比104.3%）となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における製菓事業全体の売上高は、447億36百万円（対前年同期比105.8%）と増収となりました。損益面では、原材料価格の上昇、特にチョコレート原料やアーモンドなどの高騰が大きく影響しましたが、中国事業が好調に推移し、前年同期の利益を確保しました。

#### <その他>

通販・キャラクター事業部のライセンス事業への取り組みや、(株)不二家システムセンターの受注請負、データ入力サービスなどの事務受託業務の売上が増加したことにより、その他事業の売上高は11億86百万円（対前年同期比106.0%）と前年同期を上回りました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における資産、負債、純資産の状況は以下のとおりであります。

流動資産は249億45百万円で、主に売掛債権やたな卸資産の減により前連結会計年度末に比べ21億97百万円減少いたしました。固定資産は321億60百万円で、主に有形固定資産の増により、前連結会計年度末に比べ26億75百万円の増加となりました。

この結果、総資産は571億6百万円で前連結会計年度末に比べ4億78百万円増加いたしました。

また、流動負債は195億18百万円で、主に短期借入金の新規約定により前連結会計年度末に比べ1億87百万円増加いたしました。固定負債は96億63百万円で、主に長期借入金の新規約定や社債の発行により前連結会計年度末に比べ17億72百万円増加いたしました。

この結果、負債は合計291億82百万円で、前連結会計年度末に比べ19億59百万円増加いたしました。

純資産は279億24百万円で、主に配当金の支払や四半期純損失の計上により前連結会計年度末に比べ14億81百万円減少いたしました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年12月期の業績予想につきましては、平成26年7月31日に発表した予想の変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,070	9,916
受取手形及び売掛金	12,551	8,393
商品及び製品	3,364	3,173
仕掛品	283	301
原材料及び貯蔵品	2,292	2,302
繰延税金資産	209	219
その他	680	923
貸倒引当金	△309	△285
流動資産合計	27,143	24,945
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,838	6,943
機械装置及び運搬具（純額）	6,955	7,907
土地	2,936	3,711
リース資産（純額）	1,552	1,420
その他（純額）	583	684
有形固定資産合計	18,866	20,667
無形固定資産		
のれん	239	641
その他	291	320
無形固定資産合計	531	962
投資その他の資産		
投資有価証券	6,885	6,989
繰延税金資産	195	158
敷金及び保証金	2,268	2,777
前払年金費用	304	61
その他	649	697
貸倒引当金	△217	△153
投資その他の資産合計	10,086	10,531
固定資産合計	29,485	32,160
資産合計	56,628	57,106



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,565	5,925
短期借入金	4,227	5,279
1年内償還予定の社債	354	494
リース債務	463	454
未払金	4,981	4,035
未払法人税等	405	300
賞与引当金	280	647
店舗閉鎖損失引当金	20	3
その他	2,033	2,376
流動負債合計	19,331	19,518
固定負債		
社債	625	1,416
長期借入金	3,265	4,282
リース債務	1,241	1,105
繰延税金負債	-	151
退職給付引当金	1,430	1,668
長期末払金	790	487
その他	537	552
固定負債合計	7,890	9,663
負債合計	27,222	29,182
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	18,280	18,280
資本剰余金	4,065	4,065
利益剰余金	5,779	4,076
自己株式	△15	△15
株主資本合計	28,109	26,406
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	36	125
繰延ヘッジ損益	17	16
為替換算調整勘定	406	432
その他の包括利益累計額合計	460	575
少数株主持分	836	942
純資産合計	29,405	27,924
負債純資産合計	56,628	57,106

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)
売上高	64,904	72,142
売上原価	34,335	39,774
売上総利益	30,568	32,368
販売費及び一般管理費	31,021	33,234
営業損失(△)	△452	△866
営業外収益		
受取利息	16	28
受取配当金	66	92
持分法による投資利益	477	209
その他	128	181
営業外収益合計	688	511
営業外費用		
支払利息	87	95
社債発行費	-	25
その他	67	85
営業外費用合計	154	206
経常利益又は経常損失(△)	80	△561
特別利益		
固定資産売却益	0	0
投資有価証券売却益	1	-
特別利益合計	1	0
特別損失		
固定資産廃棄損	64	77
投資有価証券評価損	6	0
災害損失	-	12
特別損失合計	70	90
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	12	△651
法人税、住民税及び事業税	313	490
法人税等調整額	17	△10
法人税等合計	330	480
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△317	△1,132
少数株主利益	119	183
四半期純損失(△)	△437	△1,315

## 四半期連結包括利益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△317	△1,132
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	240	77
為替換算調整勘定	303	36
持分法適用会社に対する持分相当額	3	10
その他の包括利益合計	546	125
四半期包括利益	229	△1,006
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	23	△1,200
少数株主に係る四半期包括利益	205	194

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第3四半期連結累計期間(自平成25年1月1日 至 平成25年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	洋菓子事業	製菓事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	21,506	42,278	63,785	1,118	64,904	—	64,904
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	559	559	509	1,068	△1,068	—
計	21,506	42,838	64,345	1,627	65,972	△1,068	64,904
セグメント損益(△は損失)	△545	1,938	1,393	118	1,511	△1,964	△452

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、キャラクターグッズ等の通信販売、ライセンス事業、不動産事業及び事務受託業務等を含んでおります。

2 セグメント損益(△は損失)の調整額△1,964百万円には、固定資産減価償却費の調整額11百万円、のれんの償却費の調整額△46百万円、その他の調整額9百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,938百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費に係る費用であります。

3 セグメント損益(△は損失)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第3四半期連結累計期間(自平成26年1月1日 至 平成26年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	洋菓子事業	製菓事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	26,219	44,736	70,956	1,186	72,142	—	72,142
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	587	587	516	1,104	△1,104	—
計	26,219	45,324	71,544	1,702	73,247	△1,104	72,142
セグメント損益(△は損失)	△788	1,944	1,156	108	1,264	△2,131	△866

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、キャラクターグッズ等の通信販売、ライセンス事業、不動産事業及び事務受託業務等を含んでおります。

2 セグメント損益(△は損失)の調整額△2,131百万円には、固定資産減価償却費の調整額9百万円、のれんの償却費の調整額△74百万円、その他の調整額7百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△2,074百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費に係る費用であります。

3 セグメント損益(△は損失)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。